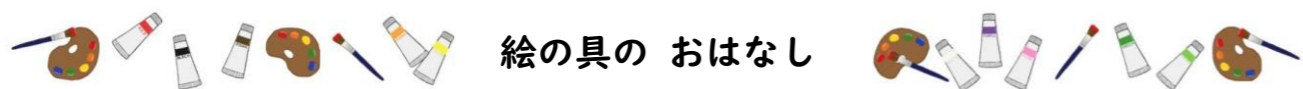
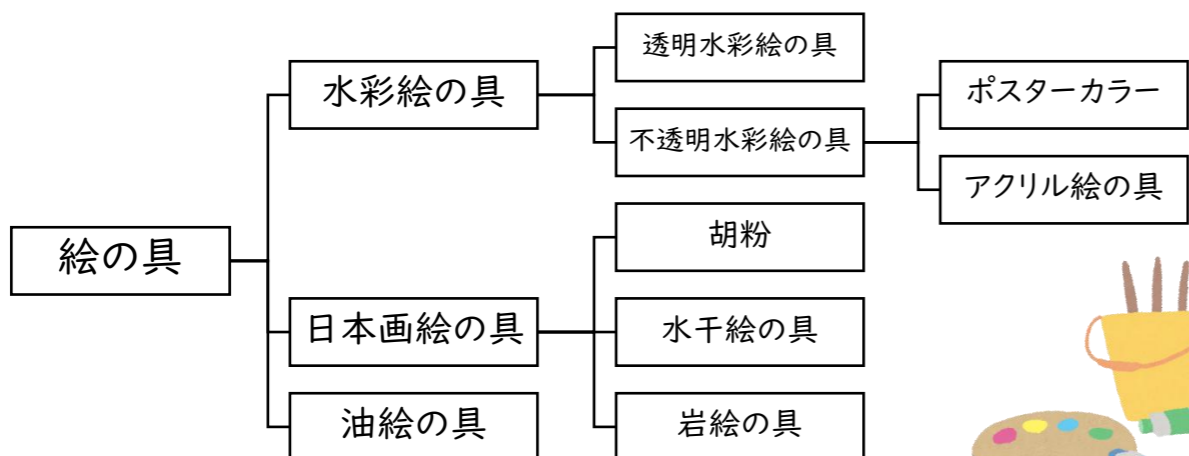


美術だより



絵の具のおはなし



今回は、小学校から何気なく使ってきた道具のお話です。

一口に“絵の具”と言っても、実はたくさん種類があります。顔料に混ぜられている定着材によって、名称や特徴が大きく変わります。

水彩絵の具は、一度固まっても水に溶ける特徴があります。多くの小学生が授業で使用しているのは**透明水彩絵の具**です。学校で採用されているものは、小学生でも使いやすいように“白色”のチューブが入っていますが、本来色を明るくする場合は、水を多く含ませ紙の白を活かして表現するものです。

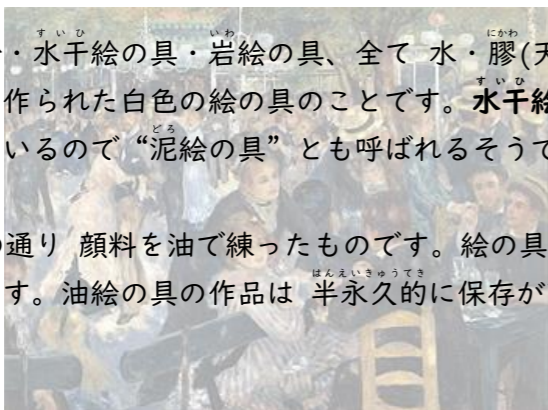
まだお家に 小学校で使っていた絵の具セットがある人は、スケッチに出掛けてみても良いかもしれません。芸能人の才能を査定するテレビ番組の影響もあってか、人気が高まっていると思います…!

ポスターカラーは、水溶性樹脂が使われているので耐水性がありません。平面構成など デザインの授業に適している・低価格などの理由から、中学校の美術教材として採用されることが多いです。

それに対して **アクリル絵の具**は、アクリル樹脂を使っているのが乾くと耐水性があるという大きな違いがあります。屋外に展示することを想定している作品に相応しいですが、パレットの上で乾いてしまうと片付けるのが大変です!

日本画絵の具は、胡粉・水干絵の具・岩絵の具、全て水・膠(天然の接着剤)で溶いて使います。胡粉は、牡蠣などの貝殻から作られた白色の絵の具のことです。水干絵の具は、天然の土あるいは胡粉・白土に染料を混ぜて作られているので“泥絵の具”とも呼ばれるそうです。岩絵の具は、鉱石を砕いて作られた粒子状の絵の具です。

油絵の具は、その名の通り 顔料を油で練ったものです。絵の具を溶く時も油で溶きますが、筆を洗う時も掃除用の油を使用します。油絵の具の作品は半永久的に保存が可能なので、西洋絵画の画材として長い歴史があります。



制作、順調です!

図画工作と比べると、専門性が高くなったように感じているかもしれません。

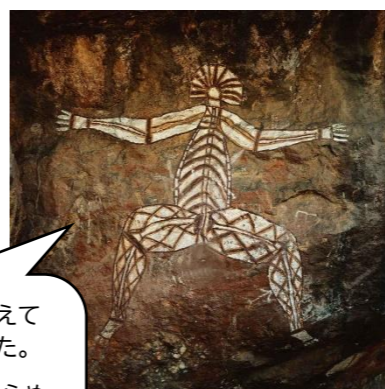
1年生の4月の題材は、鉛筆のお話。陰影のつけ方でも、塗る方向・技法を工夫すると、不思議とモチーフの質感を描き分けることができそう…!

5月からは、色のお話。ポスターカラーを使う準備も兼ねています。平面構成をする時には、作品を通して相手に「どのような印象を与えたいか」を考えて配色することが大切です。配色を考えながら、ポスターカラーの使い方について学習した1年生のみなさんなら、上手に塗るのは余裕かな…?

線が交差しているから、布みたい…。

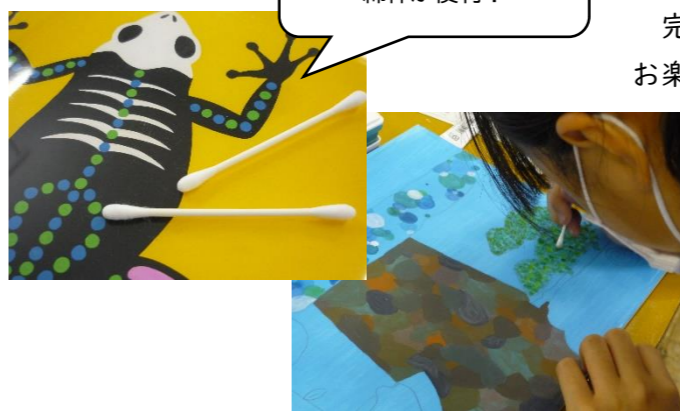


触ったらザラザラしてそう!



「人間の開き!」と答えてくれた生徒もいました。なるほど、鱗の開きならぬ人間の開き…。生徒の発想にはいつも驚かされます!

ドット・ペインティングには綿棒が便利!



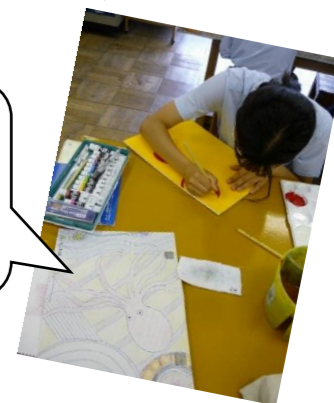
2年生は、現在 オーストラリアの先住民の絵画表現である「アボリジナルアート」に挑戦中!

まずはタブレットを使って、作品を鑑賞…。なんだか不思議な作品です。

アボリジナルアートには、大きく2つの技法があります。多くの点とその集合で様々な世界を表す「ドット・ペインティング」は、元々 地面に幾何学模様を描いて地図のように使っていたそうです。“X線技法”は、動物の「食べられる部分」と「食べてはいけない部分」を伝えるために、動物の骨格や内臓が透けて見えるように描く技法です。

完成したら中央玄関(九中ギャラリー)に展示予定! お楽しみに♪

下描き用のプリントに色鉛筆で塗って、計画的! やはり配色を考えるのはどの題材でも大事です。



3年生は、昨年度末から 修学旅行に向けて学習しています。春休みには これまでの学習を活かして、しおりの表紙を制作しました。力作ばかりで感動…!

また、訪れる奈良・京都で少しでも 仏像・寺院の魅力に触れられるよう、冊子を使って授業を進めています。3年生のみなさん、帰ってきたら感想を聞かせてくださいね!

